

大鹿村中央構造線博物館たより 206号



2026年7月発行

TEL: (0265) 39-2205
staff69@mtl-muse.com

大鹿村の山城③ 松平城

松平城は、標高約730m、大鹿保育所のすぐ北の斜面を上った場所にあり、香坂高宗の長子高重や、第二子の松平二郎が居住したといわれています。現在は松平神社の境内となっています。

松平城のあった場所は、尾根の末端近くが丘状に突き出た部分にあたり、南面、東面は高低差20mの急崖で、かつては崖下に小渋川の広い川原が広がっていたと思われます。松平城の区画は狭く、要害性も高いとはいえませんが、河合-中尾-文満を結ぶ道が大河原と鹿塩を結ぶ主要道であったことから、大島城、堀田城とともに、大河原城防衛のため、交通路を監視する役割があったと思われます(図1)。また、現在は杉の老木が茂っており展望はよくないものの、かつては青木城を含む青木谷を望むことができたと思われます。松平城の城域の中を中央構造線が通っている可能性が高いですが、地質境界の位置は未確認です。

松平城の主郭は2段になっていて、現在上段に松平神社の社殿が建てられ、下段に集会所(歌舞伎舞台)があります(図2,写真1)。主郭の南西に小さな腰曲輪が見られ、矢を放つ場所として使われていた可能性もあります。(宮崎)



写真1 松平神社主郭南側から北側を撮影。正面の一段高いところに社殿あり、右手には集会所あり。

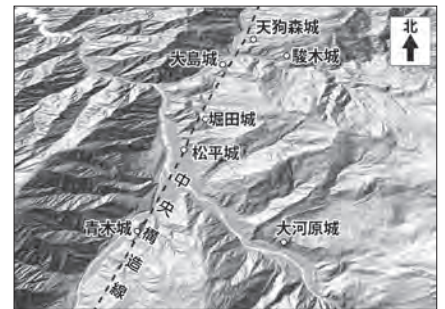


図1 大鹿村の主要な山城の立地

QGISにて長野県砂防部の0.5mDEMをもとに陰影図を作成したものを背景に3D表示。

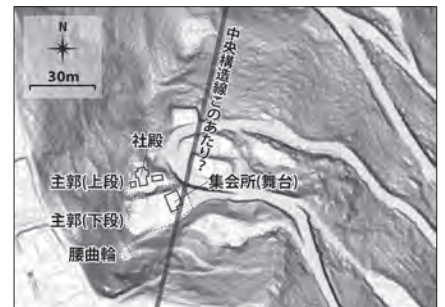


図2 松平城の小郭分布

QGISにて長野県砂防部の0.5mDEMをもとに傾斜量を算出した図を背景に表示。色が濃いほど急傾斜で、色が薄いほど緩傾斜を示す。主郭、腰曲輪の位置は宮坂(2013)を参考に記入。

◆参考文献

市村咸人(1933)史蹟名勝天然記念物調査報告 第拾四輯, 長野県, p.131-168.

宮坂武男(2013)「信濃の山城と館」(第6巻)諏訪・下伊那編一縄張図・断面図・鳥瞰図で見る, 戎光祥出版, p.457-459.

大鹿村誌編纂委員会(1984)「大鹿村誌 上巻」, p.94-95.